

第2学年2組 社会科(歴史的分野) 学習指導案

日 時 平成27年2月13日(金) 5校時
場 所 広瀬中学校図書館
指導者 教 諭
司書教諭
学校司書

1 単元名 高まるデモクラシーの意識(6章) (第5部 近代国家の歩みと国際社会)

2 単元の目標

第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動と国際協調の動き、日本における民衆の政治意識の高まりと文化の大衆化などについて、さまざまな資料から分析・表現し、時代像を考察する力を育てる。

- 自分の考えを持ち、積極的に情報収集や意見交換ができる。(社会事象への関心・意欲・態度)
- 社会事象を多角的・多面的にとらえ、自分の言葉で説明、表現できる。(社会的な思考・判断・表現)
- さまざまな資料から、学習課題に応じた情報を適切に取捨選択できる。(資料活用の技能)
- 学習した内容を理解し、得られた知識から年表を作ることができる。(社会事象についての知識・理解)

3 図書館活用教育の視点

- 学習課題に応じて情報を適切に取捨選択し、わかりやすく表現・発表する力を身につける。
- 物事を多面的・多角的に思考する力を育成し、生徒の言語活動の充実を図る。

4 学習の基盤

(1) 単元について

本単元は、学習指導要領(5)近代の日本と世界、中項目オ「第一次世界大戦の背景と影響」を中心に構成する。歴史的事象の理解の方法として、(1)歴史のとらえ方、中項目ウの「学習した内容を活用して、その時代を大観し表現する活動を通して、各時代の特色をとらえさせる」学習を行う。時代を大観する学習とは、学習内容をもとにどのような時代であったのかということ自分の言葉で語る学習であり、生徒なりの視点で時代を総括する学習である。

本単元で扱う「大正時代」は、近世の後半期に位置し、わが国が近世までのアジア的な歴史観からの脱却をめざし、国内政治の整備と日清・日露戦争を経て、世界の諸外国を視野に近代国家としての様相を呈する時代である。その点から、近代は現代に直接通じる時代であり、一国の歴史としてではなく、より多角的・多面的な歴史としての見方やとらえ方が求められる時代である。また、国内的にはアジアで最初の立憲国家として民主政治が定着しつつある時代を迎え、政治が庶民に近くなったデモクラシーの時代といえる。

第一次世界大戦は、日本を国際社会の一等国の仲間入りを世界に印象づけ、経済的にも未曾有の好景気となり財閥が成長するきっかけとなった。財閥の戦略的意図を背景に、大戦後は国際協調の動きの中にありながら、中国や朝鮮への進出を進める軍部と国際協調を進める政府との対立は次第に顕著となり、昭和恐慌を機に軍部が政治を支配する昭和時代へ移っていく。

本単元の第一次で取り上げる「第一次世界大戦」は、総力戦、科学戦の一面を持ち、「クリスマスには帰れる。」という当初の各国の考えとは異なり、長期化の様相を示した。その背景には、世界大戦が領土や主権の問題だけではなく、成熟を向かえた経済界とのつながりがある。したがって、本単元で、大国の多様な利害が絡み合う世界大戦を多面的・多角的な視点から捉える学習を行うことは、現代の複雑な国際社会をとらえるための見方や考え方を育てていくことにつながると考える。

(2) 生徒について

(3) 指導にあたって

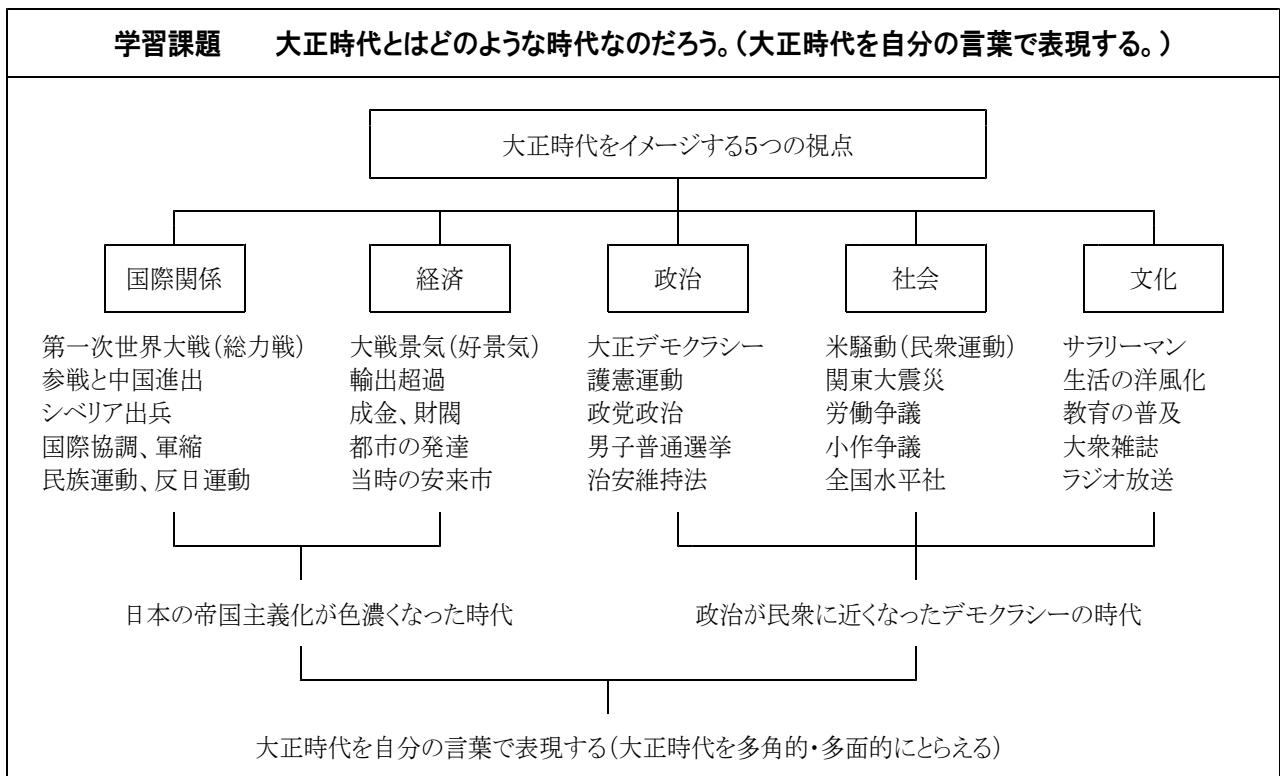
以上のような実態から、第6章の導入である第一次においては、第一次世界大戦をさまざまな角度から考察・分析する学習課題を設定し、少人数による調べ学習、話し合い活動を行う。また、グループごとの発表会を行い、これまで培ってきた情報収集・活用能力、思考力・表現力をより高めていきたいと考える。

学習課題の設定の段階では、意識調査の結果を踏まえ、5つ課題を設定し各班にテーマを分担する。情報収集にあたっては、図書館を活用し、必要な図書は司書教諭、学校司書と連携して多種多様なものを事

前に準備しておく。ただし、膨大な資料をすべて読み解くことは不可能なため、あらかじめ指導者側(社会科担当、司書教諭、学校司書)で各学習課題に応じた複数の資料を選んでおく。資料を分析・選択する段階においては、学習課題をもっとも適切に解決できるもの、また、事後の発表会を踏まえ、もっとも効果的に相手に伝えることができるものを選択させる。学習課題を相手に伝える段階においては、これまでの取組の成果を踏まえ、役割分担、視聴覚機器の活用などを指導していきたい。また、学習課題を深める場面では、司会者を中心に話し合い活動がうまくできるように支援していきたい。

第二次以降も事前の意識調査の結果から学習課題を設定し、レポート形式でまとめていく形をとる。1月に行った「都道府県レポート」では図書館の資料を用いて限られた時間の中で情報の収集・取捨選択・まとめをすることができた。また、日露戦争を分析するレポートではグループで情報を交換しながら一人一人がレポートの内容を工夫することができた。単元の終末では、学習してきたことをふり返り、根拠を示して大正時代を大観する活動を行い、以後の昭和史の学習につなげたい。なお、第二次では全国水平社創設の学習を通して、部落差別の解決に向けての実践的態度も育てたい。

5 単元構造図



6 評価規準

	(ア) 社会事象への 関心・意欲・態度	(イ) 社会的な 思考・判断・表現	(ウ) 資料活用の技能	(エ) 社会的事象に ついての知識・理解
単元 の 評 価 規 準	第一次世界大戦、民族運動の高まりと国際協調の動き、日本国民の政治意識の高まりと文化の大衆化などについて、学習課題を意欲的に追究している。	第一次世界大戦の影響及び大戦後の世界の諸民族や日本国民の政治意識の高まりについて多面的・多角的に考察し、適切に表現している。	学習課題に関する情報をさまざまな資料から収集し、学習の方法に応じて、適切に取捨選択して、わかりやすくまとめている。	第一次世界大戦の背景や影響、国際協調と民族運動、政党政治の始まりと都市化、大衆文化についてよく理解している。
第一 次	①グループの発表で自己の役割を積極的に果たしている。	①第一次世界大戦を多角的・多面的にとらえ、自分の言葉で表	①内容を精査しながら、学習課題に応じた資料を適切に選択	①第一次世界大戦をめぐる国際情勢について理解している。

		現している。	している。	
第二次	②不合理な差別の解消に向けて、積極的に自分の意見が言える。	②有権者数の増加の資料から、大正デモクラシーの意義を説明している。	②国際協調と民族運動の資料から適切な資料を選択し、レポートにまとめている。	②社会運動の高まりを当時の時代背景から理解している。
第三次	③話し合い活動で積極的に自分の意見が言える。	③根拠を示しながら大正時代を自分の言葉で表現している。		③明治から大正時代までのおもな出来事を年表形式にまとめることができる。

7 単元の指導計画と評価計画

次	時	学習のねらい	おもな学習活動	評価規準	評価方法
第一次	1	学習課題に応じた情報を収集し、適切に取捨選択することができる。	○意識調査の結果から、学習課題を設定する。 ○図書館の資料から学習課題に応じた情報を収集する。	(エ) ①	発言の聴取 活動の観察
	2	学習課題を分析し、選択した情報を相手に伝える方法や手段を考えることができる。	○グループで資料の分析・考察を行い、資料を精選する。 ○学習課題を相手に伝える方法や手段を考える。	(ウ) ①	活動の観察
	3 (本時)	第一次世界大戦をさまざまな視点から分析・考察し、第一次世界大戦とはどのような戦争であったのか自分の言葉で表現できる。	○グループごとに学習課題を発表し、互いに評価しあう。 ○意見交換を行い、第一次世界大戦を自分の言葉でまとめる。	(ア) ① (イ) ①	活動の観察 活動の観察 発言の聴取
第二次	1	国際協調と民族運動に関する資料について適切に分析・表現することができる。	○学習課題を設定する。 ○国際協調と民族運動に関する資料からテーマを決めてレポートを作成する。	(ウ) ②	活動の観察 レポート
	2	大正デモクラシーに関する情報を集めて適切に表現できる。	○学習課題を設定する。 ○大正デモクラシーに関するレポートを作成する。	(イ) ②	活動の観察 レポート
	3	社会運動と大衆文化について、現代の生活と比較して説明できる。	○学習課題を設定する。 ○現代の生活と比較して当時の生活の様子を考察する。	(エ) ②	活動の観察
	4	部落差別の実態を理解するとともに、差別解消に向けての意欲と態度を育てる。	○学習課題を設定する。 ○全国水平社創設を通して解放運動の高まりや人権問題について話し合う。	(ア) ②	発言の聴取
第三次	1	これまでの学習をふり返し、具体的な事例や根拠を示しながら時代像をつかむことができる。	○学習課題を設定する。 ○大正時代に関わるキーワードを挙げ、自分の言葉で大正時代を振り返る。	(ア) ③ (イ) ③	活動の観察 発言の聴取
	2	明治から大正にかけての出来事に対する知識を深め、歴史の流れをつかむことができる。	○学習課題を設定する。 ○ワークシートに語句などを書き込み、年表を完成させる。	(エ) ③	ワークシート

8 本時の学習(第1次 3/3時)

(1)ねらい 第一次世界大戦をさまざまな視点から分析・考察し、第一次世界大戦とはどのような戦争であったのか自分の言葉で表現できる。

(2)展開

時間	学習活動	教師の支援 (●教科担当、■司書教諭、▲学校司書)	評価規準と方法
3	本時の学習の流れとねらいを確認する。	○各グループの学習課題を明らかにし、第一次世界大戦を自分の言葉で考える視点をもたせる。(●)	
20	学習課題ごとに発表する。 (学習課題) ①国際情勢と戦争の始まり ②日本の参戦と好景気 ③戦争の経過と結果 ④総力戦と新兵器 ⑤自由テーマ	○発表ごとに声の大きさや立ち位置、資料の提示方法などを適切に指示し、発表の内容が全員に伝わるようにする。(●) ○メモの取り方、資料の扱い方(見方、読み取り方)、発表の仕方を指示する。(■) ○実物投影機を利用するグループでは、機器の操作について補助を行う。(■▲) ○発表評価表を準備し、各班のよい点を積極的に評価させる。(●)	(ア) ① 活動の観察
10	学習課題を深める。 ※グループを再編する。	○話し合いがうまく進まないグループがあれば適切に補助発問や補足説明を加え、生徒の思考を深める。(●■)	(イ) ① 活動の観察 発言の聴取
15	第一次世界大戦を考察し、自分の言葉で表現する。	○活動が難しい生徒については、自分が調べた内容で考察するように指示する。(●■) ○関連資料を紹介する。(▲)	
2	第一次の学習をふり返る。	○活動全体でよかった点を積極的に評価し、これからの学習への意欲を高める。(●) ○情報の収集や取舍選択、表現方法について評価する。(■)	

(3)本時の評価

評価の観点	十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	努力を要すると判断される生徒への手立て
(ア) ①	発表方法や手段に工夫が見られ、相手にわかりやすく伝えようとしている。	相手にわかりやすく伝えようとしている。	声の大きさや資料の提示方法について具体的に支援する。
(イ) ①	第一次世界大戦を考察する際に、発表や話し合いの成果を踏まえ、根拠や資料を提示して表現できる。	第一次世界大戦を考察する際に、発表や話し合いの成果を踏まえて表現できる。	自分が調べたこと、発表で印象に残ったことから表現するように支援する。

(4)授業研究の視点

- 第一次世界大戦を分析・考察するための発表や話し合い活動の手立ては適切であったか。
(言語活動の充実)
- 司書教諭や学校司書との連携は、ねらいを達成する上で効果的であったか。(図書館活用の充実)